企業におけるリスクマネジメント ワンポイント講座　損害保険代理店活用シリーズ

ＮＰＯ法人リスク・エイド　事務局長　伊集院　剛史

～リスク対策のパートナーを持とう！～

多くの会社は、さまざまな経営目標を立ててその実現のために動いています。それらの目標達成を不確実にする要因として、地震・水害・台風などの自然災害や経営者・従業員の病気やケガ、火災や盗難等による資産滅失、その他さまざまなリスクが想定されます。また、近年では企業ネットワークに侵入されて情報を盗まれたりネットバンキングのパスワード盗み取りによる預貯金の不正送金によって金銭的被害を被るといった「サイバー攻撃」についても注目されています。今回は、これら多様なリスクに適切に対処するための外部パートナー活用について取り上げます。

●リスク想定は「外部」を巻き込んで

実効性のあるリスク対策のポイントは、自社を取り巻く状況から「起こり得る事態」を想定し、その事態が実際に起こった際の対応をしっかりと決めておくことにあります。ただ、現代社会における企業リスクは実に多様であり、自社のみで事態想定をすることには限界があります。

そこで、外部パートナーをうまく活用していくことでヌケ・モレのないリスク想定を行いたいところですが、その候補として挙げられるのが「保険代理店」です。

リスク対応は主に「リスクコントロール」「リスクファイナンシング」の２つに分けることができます。（図表参照）

リスクコントロールとは、発生する事態を回避したり、発生時の影響や発生確率を下げるための取り組みを指します。たとえば、建物の火災を想定して消火設備を充実させる、津波を想定して沿岸部にある拠点を高台へ移転させる、原材料の調達不能に伴う事業停止を想定して、原材料仕入先の複数化を図るといった対策が考えられます。

リスクファイナンシングとは、その名の通り金銭的、財務的な手段です。代表的な手段に「保険」があります。ただ、この保険は複数の代理店でバラバラに契約しているケースが多いのですが、それにより個々の代理店が企業全体のリスクを検証する機会を得られないといった側面もあります。

そこで考えられるのが「自社のすべてのリスクについての保険提案をお願いする」といったアプローチです。

●保険代理店の「経験」を最大限に活用しよう

保険代理店はその業務特性上、顧客のさまざまなトラブルと常に向き合っています。それらの経験は、その代理店の知見として蓄積されており、これを活用しない手はありません。「当社に関わるすべてのリスクを想定した保険提案を」という投げかけをすることで、その代理店が持つ多様な知見を引き出せます。

もちろん、その代理店が経験したことのないリスクもあると思われますが、その部分について保険代理店は、あなたの会社の実態や、あなたの気になっていることについて詳細な質問をすることでリスクを洗い出そうとするでしょう。そのやりとりの過程や出てきた保険提案の内容から、自社で気づかなかったリスクについても明らかにできる可能性があります。

そこで全体の保険提案が出てきたからといって、そのすべてを採用する必要はありません。優先すべきリスク対策から可能な限り採用すると断った上で、保険代理店に依頼をすれば無用なトラブルも回避できます。これらの依頼に応じてくれる保険代理店は、契約者を守ろうとする意識が強く、能力も高いところが多いものです。最適な外部パートナーとして保険代理店を積極的に活用してみてはいかがでしょうか。

図表．リスク対応のバリエーション

豆事典　**「サイバー攻撃」とは？**　コンピュータシステムやインターネットなどを利用して、標的のコンピュータやネットワークに不正に侵入してデータの詐取や破壊、改ざんなどを行ったり、標的のシステムを機能不全に陥らせること。

交通安全対策シリーズ

～高齢者の交通事故防止対策～

注意しましょう！ 高齢者の事故割合が増えています!!

ご存知ですか？交通安全意識の向上や自動車の安全性能がよくなり、交通事故の死者数は年々減少傾向にあります。ところが、その一方で高齢者（65歳以上）が占める割合は高くなってきているのです。

■高齢者はどのような交通事故に遭っているのでしょうか？

～高齢者が「歩行者」の場合～

横断歩道以外の場所や走っている車のそばを横断したり、横断歩道で信号無視をしてしまうなどが多く見られます。まずは交通ルールをしっかり守りましょう。

また、高齢者に特有の事情が影響する場合もあります。例えば、横断歩道を信号が「青」のうちに渡りきろうとしますが、実際に歩く速度は本人が思っているよりも遅く、「赤」に変わり、事故に遭ってしまうケースもあります。老化による体力や判断力の低下などに注意し、無理な横断は避けることが必要です。

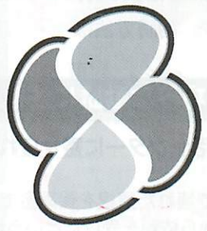
横断歩道は余裕をもって

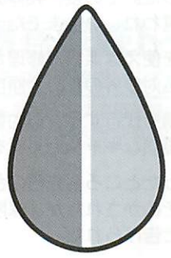
～高齢者が「運転者」の場合～

高齢ドライバーによる死亡事故の主な原因としては、アクセルとブレーキの踏み間違いなど運転操作のミスや信号のない交差点などでの出会い頭の事故が多く見られます。運転歴何十年というベテランであっても慣れが影響することもあり得ますので、改めて注意が必要です。交差点では徐行したり、一時停止を守って、しっかり安全確認をしましょう。日ごろからの意識づけも大切です。

なお、70歳以上のドライバーが運転する車には「高齢運転者標識（高齢運転者マーク）」を表示することができます。周囲の自動車運転者は、マークをつけた自動車に配慮することが義務づけられています。

高齢運転者標識（高齢運転者マーク）





※従来のマーク（下）も当面使用することができます。

暗い時間帯の外出は反射材を付けて

■特に身近な場所や夕暮れ時には注意が必要です!!

高齢者の交通事故は、自宅から半径500メートル以内という身近な場所で多く起こっています。「慣れている道だから」「これまで危ないことには遭わなかったから」という油断は禁物です。

また、高齢者の歩行中死者の多くが急に暗くなる夕暮れ時や夜間に交通事故に遭っています。道路横断時の安全確認を徹底するとともに、白や黄色といった明るい色の服を着たり、車のライトを反射する「反射材」を身に付けて、自分の存在を積極的に車にアピールしましょう。

交通事故の高齢者（65歳以上）死者数の推移（警察庁発表）

平成	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
高齢者（65歳以上）（人）	2,749	2,523	2,483	2,489	2,309	2,279	2,309	2,193	2,247	2,138	2,020
全死者数（人）	5,796	5,209	4,979	4,948	4,691	4,438	4,388	4,113	4,117	3,904	3,694
高齢者構成率（%）	47.4	48.4	49.9	50.3	49.2	51.4	52.6	53.3	54.6	54.8	54.7

豆事典　**「高齢運転者標識」とは？**　道路交通法に基づく標識で、70歳以上の者が身体機能の低下により運転に影響を及ぼす恐れがある場合、これをつけて普通自動車を運転するよう努めなければなりません。